耳がイタイ話も

足つぼマッサージで痛みを感じるのは、

カラダに効いている証。

図星を指されてドキッとするのは、

ココロに効いている証。

きっかけ感話
【超短編】

vol.47

和而不同

学生時代にチラシ配布のアルバイト経験がある。勤務の大半が〝断られ続ける〟時間で過ぎていく。いらないと言う人。スッと手をかざして去る人。全く見向きもしない人。人間観察にはうってつけだが、随分と堪えた▼反面、手に取ってもらえた時の喜びはひとしおである。相手が瞬時に良い人に映る。ところがどっこい。すると今度は、スルーする相手がたちまちイヤな人に思えてくる。「せっかく丁寧に渡してるのに・・」。勝手なものだ▼私たちはこうした自分の都合で描き出したー虚像ーに左右されながら暮らしている。〝良い人〟や〝イヤな人〟がいるのではない。そこに居る人を、自己の価値観に則って《良い》《イヤ》と分別しているに過ぎないのだ▼ものの見方は十人十色。例えば、私の〝よかれ〟が裏目に出てしまうことがあるのはそのためだ。社会学者 岸政彦氏の『本人を心配する、というかたちでの、おしつけがましい介入がある。』（『断片的なものの社会学』）という言葉が、我見の危うさを物語っている▼「あのね、人に何か良いことしようと思った時にはな、あやまりながらやりなはれ」。梯實圓（かけはし じつえん）和上（わじょう）は仰った。そうなのである。そう、なのである。

若院コラム

「あなたは、あなたでいいのだ。」

ACジャパン公共広告
2009年度 制作

～赤塚不二夫さんの姿・
(バカボンのパパ)「これでいいのだ」を通じて～

NEW!

WASHITE DOUZEZU